第２期

# 庄原いちばんづくり

令和３年２月

庄原市

# 目　次

## 第１章　総 論

１．「庄原いちばんづくり」　・・・・・・・・・・・・・　1

２．「庄原いちばんづくり」の体系　・・・・・・・・・・・・・　3

## 第２章　分野別政策と施策

政策１．「地域産業」のいちばん　・・・・・・・・・・・・・　4

政策２．「暮らしの安心」のいちばん　・・・・・・・・・・・・・　6

政策３．「にぎわいと活力」のいちばん　・・・・・・・・・・・・・　8

# 第１章　総 論

## １．庄原いちばんづくり

### （１）「庄原いちばんづくり」とは

平成 17 年３月、１市６町による合併により誕生した本市は、平成 19 年３月に策定した「第１期 長期総合計画」に掲げる将来像を実現するため、地域の特性に応じた様々な施策を展開してきました。

合併から 10 年余りを経た平成 28 年３月には、本市における今後 10 年間の「まちづくり」の指針として「第２期 長期総合計画」を策定し、最重要課題である人口減少をはじめとする様々な課題克服に向け、新たな挑戦の第一歩を踏み出しました。

この間、人口の減少や少子高齢化の進行、基幹産業の衰退など、中山間地域を取り巻く課題が年々その深刻度を増す中、これらの課題の克服と現状からの脱却、そして活力ある庄原市の実現に向けた取り組みを推し進めるための手法を模索してきました。

平成 25 年 11 月、その方策として「活力ある“ふるさと”の実現」「美しい“ふるさと”を未来へ」の想いを具体化し、**「地域産業」・「暮らしの安心」・「にぎわいと活力」**の分野別政策で構成する**「庄原いちばんづくり」**を、新たな視点での本市の基本政策として位置付けました。

この “いちばんづくり”の「いちばん」とは、数値や量、順位などを他者と比較したものではなく、「しあわせ」や「安心」、「達成感」や「満足感」といった、心の「いちばん」を実感できること、庄原に関りのある人々が**「やっぱり、庄原がいちばんええよのぉ」**と思える「まちづくり」を意図したものです。

### （２）これからの「庄原いちばんづくり」

これまで、“庄原いちばんづくり”の分野別政策、施策及び事業を推進するため、計画期間内に最優先で取り組むべきものに限定し取りまとめた、「庄原いちばん基本計画（第１期：平成 25・26 年度、第２期：平成 27・28 年度）」及び「庄原いちばんづくり（第１期：平成 29 年度～令和２年度）」を策定し、事業を推進してきました。この３期・８年間に亘る計画期間内において、「庄原いちばんづくり」の取り組みは多くの成果を紡ぎ出し、随所に手応えも感じています。

こうした中、新型コロナウイルスという誰もが想定しえない不安との闘いが続いており、本市においても地域経済や市民生活に大きな影響が生じています。

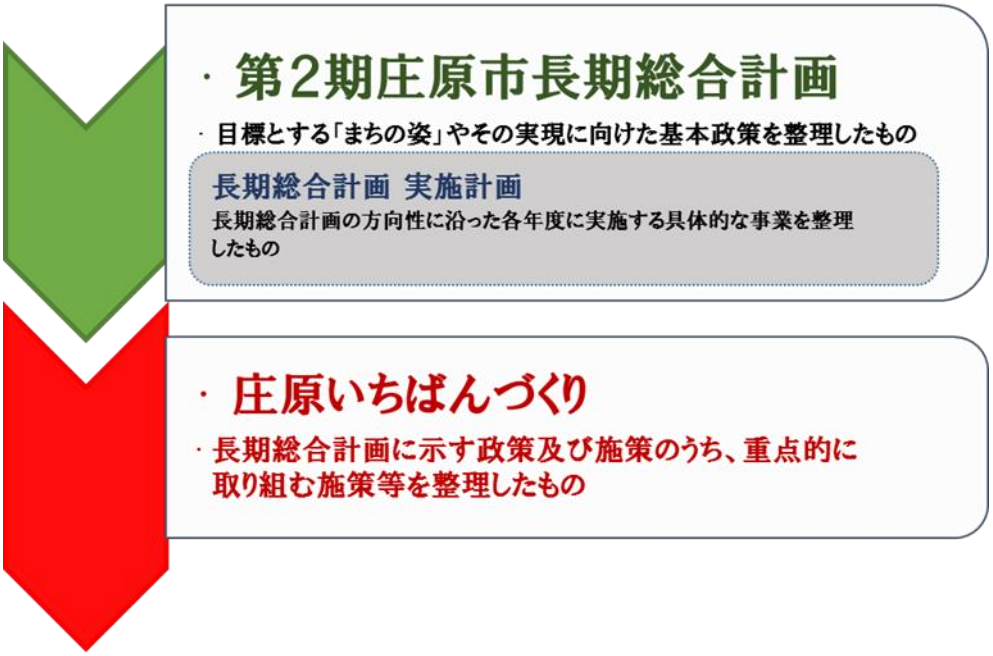
一方で、密を避ける新たな生活様式が求められる中、自然豊かな本市にサテライトオフィスを構え、事業展開を図る企業の進出など、新たな動きも生じています。

この未曾有の危機を乗り越え、**「次代につながる庄原市」**の実現を確固なものとするため、本書において第２期「庄原いちばんづくり」における分野別政策及び施策を明示します。

### （３）「第２期　長期総合計画」との関係

「第２期 長期総合計画」では、市民と行政がともに創造する将来像として「美しく輝く里山共生都市」を掲げ、この実現に向けた基本政策、施策及び事業に取り組むとしています。

本書では、「第２期 長期総合計画」に示す政策及び施策を基底とし、市長が重点的に取り組む施策等を整理、体系化しています。




### （４）第１期及び第２期「庄原いちばん基本計画」及び第１期「庄原いちばんづくり」掲載事業との関係

これまで、「庄原いちばん基本計画」及び「庄原いちばんづくり」に掲載した事業には、今後も継続して取り組む事業が多くあります。

これらの事業については、いずれも「長期総合計画」の施策体系に沿って着実に実施すると同時に、「庄原いちばんづくり」に照らし、令和３年度以降、最優先で重点的に実施しようとする事業について、「重点事業」として整理します。

この「重点事業」は、「選択と集中」の原則とコロナ禍である現状を踏まえた上で、地域経済の活性化に効果が高く、地域の将来にインパクトを与える基幹施設整備事業及び、今後の市政における新機軸となる事業の中から選定し、別途「重点事業一覧」として取りまとめます。

### （５）第２期「庄原いちばんづくり」の期間

第２期「庄原いちばんづくり」は、本市における中期的な展望を踏まえた施策を整理したもので、その期間は令和３年度から令和６年度までの４年間としています。

## ２．「庄原いちばんづくり」の体系

# 庄原いちばんづくり

【分野別政策･施策】

### 【政策１】地域産業のいちばん

- [施策１]新たな可能性で切り開く“稼ぐ”地域産業の構築
- [施策２]“食の宝庫 庄原”の強みを活かしたブランディング
- [施策３]新たな時代の潮流を取り込んだビジネスモデルの構築

### 【政策２】暮らしの安心のいちばん

- [施策１]安心を実感できる子育て環境の整備
- [施策２]安心・安全で快適に暮らせる生活基盤の確保
- [施策３]地域で活躍できる次代を担う人材育成

### 【政策３】にぎわいと活力のいちばん

- [施策１]人口ビジョンに基づく将来人口の確保と地域課題解決への挑戦
- [施策２]にぎわいを生み出すさらなる魅力の創出
- [施策３]多様な地域資源を結び、輝かせる連携軸の構築

# 第２章　分野別政策及び施策

## 政策１.「地域産業」のいちばん

**◆政策の方向性**

**本市の経済・雇用を底支えしてきた農林業や商工業等のポテンシャルを高め、強靭かつ、しなやかな地域の産業構造を構築するとともに、先人により培われてきた伝統を継承しつつ、新たな時代の潮流を取り込み「庄原の強み」を最大限活かす産業ビジネスモデルを構築します。**

### [施策１]新たな可能性で切り開く“稼ぐ”地域産業の構築

【施策のねらい】

■経験の蓄積により研ぎ澄まされ、これまで本市経済を支えてきた地域産業に受け継がれた経験･技術の粋を集め、新たなノウハウを導入しながら、地域の産業を維持･発展させ、更なる高みをめざします。

本市は古くから、農畜産物の一大生産地としてその名を轟かせており、生産者に連綿と受け継がれてきた生産技術による質の高さでも、時々の消費者を大いに魅了してきました。

また、市域の 84%を占める森林についても、森林資源の有効活用と持続可能な環境づくりのため、これまでの施策から大きな転換期に差し掛かっています。

市内の商工業をはじめとする事業者は、これまで雇用の受け皿として地域経済を底支えする大きな役割を担ってきており、多様な人材を輩出してきました。

しかし、わが国が経験した都市偏重の高度経済成長と先鋭化するグローバリズムのうねりは、本市を支えてきた農林業や中小企業に甚大な影響を与え、都市部への人口流出を招き、市内経済の地盤沈下をもたらしました。

この苦境を乗り越えていくためには、これまでの経験で得られた技術に加えて、スマート農業など新たな次のステップに踏み出す必要があると考えています。これまでの施策からさらに一歩踏み込んで、市外に向けての「強み」としてアピールできる経験と新技術を融合させ、新たな総合型観光農場の調査や 22 世紀の庄原の森林づくりプランの実現など、農業・林業・商工業等の各分野に渡る“稼ぐ産業ビジネスモデル”を構築します。

## [施策２]“食の宝庫 庄原”の強みを活かしたブランディング

【施策のねらい】

■本市の農産物は生産量のみならず、その質についても全国の多くの消費者から、高い評価を得ています。こうした“食の宝庫”である強みを活かし、これまでの取組みをさらに深化させ、関係者が一丸となったブランディングに取り組みます。

古くから親しまれてきたブランド牛「比婆牛」の復活は、市内外に大きな反響を呼び、また、広島県内で初めて地理的表示保護制度（ＧＩ）に登録され、今後の展開にも期待が寄せられています。

ＧＩ登録された追い風を最大限活用し、積極的な販売強化の取組みにより「比婆牛」のブランド力をさらに高め、繁殖及び肥育農家の所得向上に結び付けていきます。

また、比婆牛を市内で提供できる環境を推進するとともに、比婆牛の安定供給を図るため、比婆牛の生産基盤の支援を充実していきます。

こだわりの生産方法で本市を代表するブランド米は、全国のコンテストで優秀な成績を収めています。

今後も関係機関・団体等と力を合わせ、「庄原ブランド」として継続的に発信し、ブランドイメージを高めることで“食の宝庫 庄原”を広くＰＲし、地域への経済効果を導きます。

## [施策３]新たな時代の潮流を取り込んだビジネスモデルの構築

【施策のねらい】

■コロナ禍において、厳しい経済状況が続いている中、密を避け、時間や場所を選ばない柔軟な働き方を選択する動きも生まれています。こうした「中山間地域」の強みを発揮できる萌芽を確実に捉え、中山間地域の資源と一体となったビジネスモデルの創出により、新たな雇用の確保と経済循環の起爆剤とします。

情報通信技術の向上により、テレワークなどを活用した時間や場所を選ばない多様な働き方が注目されており、本市においても、サテライトオフィスを構え、企業活動をスタートした事例が生まれています。

こうした新たな動きをさらに推進していくことで、地域の強みである基幹産業の活性化や雇用の確保、地域活力の底上げ、関係人口の創出に取り組みます。

また、「キャッシュレス」の利用促進につながる取り組みを支援し、コロナ禍における新しい生活様式に対応した市民生活の利便性の向上と事業者支援を後押しすることで、地域内経済循環サイクルを構築します。

# 政策２．「暮らしの安心」のいちばん

## ◆政策の方向性

地域の未来を担う「次代の主人公」である子どもから、日々の暮らしを重ね、地域の歴史を創ってきた高齢者まで、全ての世代の市民が、安らぎと静穏（せいおん）に満たされた活力ある生活を営むことができるよう、仕組みと基盤を整えます。

## [施策１]安心を実感できる子育て環境の整備

【施策のねらい】

■心から安心して子育てができる環境を構築し、「子育てはしょうばらがいちばん！」と胸を張って宣言できる、包括的な施策を推進します。

本市は以前より、子育てに関する施策について、常に新たな取り組みを実践してきました。

多子世帯への支援策である保育料等の軽減措置は国に先んじて実施し、地域の宝である子どもの誕生に際して祝意を表すとともに保護者の経済的負担の軽減を図る、出産祝金についても、他の自治体の先鞭をつけてきたところです。

しかし、少子化の波は留まる気配を見せない一方、妊娠期から出産、子育て期の支援、低年齢化する保育サービスへの対応、病児病後児や発達に支援を必要とする児童に対するきめ細やかなサービス提供など、子育てサービスに関する市民ニーズは更なる複雑多様化の様相を呈しています。

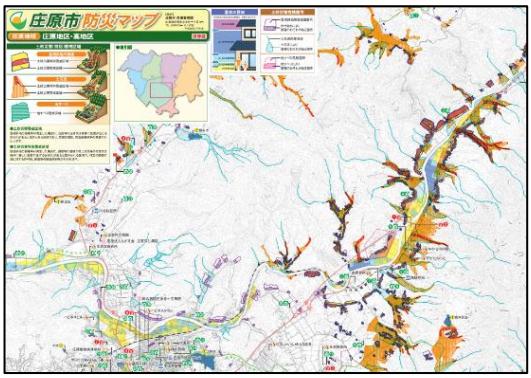
これら子育てサービスに関する様々なニーズを的確に捉え、効果的な施策を展開するため、妊娠・出産・子育て期に関する総合的相談支援を行うとともに、病後児保育や放課後児童クラブの充実など、全ての妊産婦や子育て家庭が安心して子どもを産み育てることのできる環境を整え、一人ひとりに寄り添った子育ての包括的支援を進めます。

## [施策２]安心・安全で快適に暮らせる生活基盤の確保

【施策のねらい】

■市民誰もが住み慣れた地域で安心･安全で快適な暮らしが実現できるよう、市民生活を下支えする機能･基盤を構築します。

「庄原市高齢者向けコンパクトシティ（小さな拠点）推進構想」に即し、この庄原の地で生まれ、育ち、暮らし、そして生涯を終えるライフサイクルにおいて「安心としあわせ、安寧」を実感できる基盤づくり、加えて、今後の人口減少・超高齢化の進行を見据えて集落を維持する仕組みの検討など、高齢者の安心な生活環境を守る施策を講じます。




近年、全国各地で甚大な被害をもたらす自然災害が頻発し、注意喚起などの初動体制も含め、地域防災体制の強化が強く求められています。

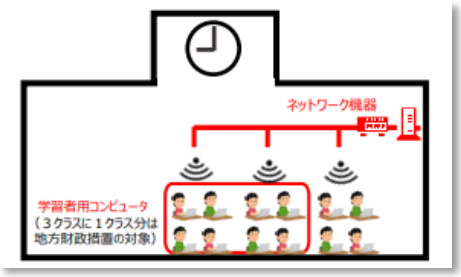
市内全域に整備した超高速情報通信網を活用し、速やかに防災情報を伝達するほか、避難場所や危険区域を記した防災マップの更新により住民の防災意識の高揚に努めます。

日々の生活を快適に過ごすため、先人から受け継いだ美しい里山環境を守り、次代に引き継ぐための仕組みづくりや、施設を維持し必要に応じて整備することは、今を生きる我々の責務でもあります。今後においても、本市において安心・安全・快適な生活を持続的に提供するため、計画的なインフラ構築等に努めます。

## [施策３]地域で活躍できる次代を担う人材育成

【施策のねらい】

■次代を担う「地域の宝」である小･中学生が意欲を持って学べる環境を整備し、地域で活躍できる、あるいは、ふるさとのことを思い行動する人材の育成を進めるとともに、市民誰もが学び憩える場所を整備し、生涯活躍できる環境の充実を図ります。




現代の初等中等教育には、子ども達が高度情報化が進展した変化の激しい社会を生き抜くための資質・能力の育成が求められています。単なる知識だけでなく、思考力や外国語も含めたコミュニケーション能力の育成とともに、ＧＩＧＡスクール用機器を最大限活用し、子ども達が自らの将来設計にあたり幅広い選択肢を得られる教育を推進します。

子ども達の大切な学び舎である校舎は、老朽化に伴い修繕等の必要性が生じています。年次的・計画的に校舎の長寿命化改修やトイレ環境を整え、子ども達が安心して学べる学習環境の充実に努めます。

市民の憩いの場であり、学びの場である田園文化センターの機能充実など、市民の“学びたいという意欲”を充足できるよう、快適な環境整備を図ることで、一層の利用促進につなげます。

## 政策３．「にぎわいと活力」のいちばん

**◆政策の方向性**

**本市に縁ある幾多の人々の力を得ながら、活力の源である人口を維持するため総力を結集すると共に、本市で生活する人や訪れる人の動線を見つめ直し、多様な資源を用いた効果的な連携軸を描くことで、新たな潮流を創り出します。**

### [施策１]人口ビジョンに基づく将来人口の確保と地域課題解決への挑戦

【施策のねらい】

■客観的なデータに基づき将来を見通した「人口ビジョン」を住民と共有し、人材確保の視点と移住者のニーズを踏まえた移住施策と、持続可能な集落の維持に向け、若者の定住に効果的な政策を実施することで、人口減少社会の課題を克服する取り組みを推進します。

本市では、第２期長期総合計画において市の抱える最重要課題を人口減少とし、地方版総合戦略に基づく施策や、国の地方創生関係交付金を活用した事業を進めることで、課題の克服をめざしています。

この本市最大の課題解決に向け、民間組織からも、共に人口問題を徹底的に考えようとする動きが生まれ、幅広い構成による組織が立ち上がり、官と民それぞれの役割の上で連携して取り組みを進めています。

今後は、これまでの施策に加え、庄原の強みを生かした仕事の創出、移住・定住者のフォロー体制の充実や関係人口の構築による人の流れの創出、結婚・出産を支援し子育て環境の充実、安心して暮らせる魅力的かつ持続的なまちづくりを進め、本市最大の課題解決に向けた取り組みを続けていきます。

## [施策２]にぎわいを生み出すさらなる魅力の創出

【施策のねらい】

■公共施設に求められるニーズ･機能を的確に把握し、都市機能の充実と、「まち」の新たな動線を生むことで、にぎわいを喚起します。

第２期長期総合計画の基本構想において、庄原市街地は都市機能の拠点区域とし、可能な限りその機能を確保、集約すると示しています。

その庄原市街地では、これまで市民サービスの拠点となる多くの公共施設を整備してきましたが、整備完了から四半世紀を経たものもあり、社会構造の変化に伴う市民ニーズの変容への対応が不十分となった施設も散見されます。

こうしたことから、都市計画マスタープランの改定と立地適正化計画を策定し、長期的な都市づくりをめざします。

また、平成 30 年３月から社会実験をスタートさせた国営備北丘陵公園北入口の「里山の駅庄原ふらり」を活用したにぎわいの創出に引き続き取り組むとともに、市街地における市民の芸術・文化活動や交流の拠点である庄原市民会館と自治活動の拠点となる庄原自治振興センターの大規模改修を進め、都市機能のさらなる充実を図るとともに、まちのにぎわいと活力を生み出す施策を展開します。

## [施策３]多様な地域資源を結び、輝かせる連携軸の構築

【施策のねらい】

■豊かな自然が育む上質な食材、風光明媚な観光資源、ホスピタリティに溢れる優しい人々など、これら本市が誇る様々な資源を活用し、地域の活性化に繋ぐ仕掛けを構築します。

広大な面積を有する本市は、市内随所に散らばる、魅力溢れる多様な資源を有しており、地域資源を活かした施策に継続的に取り組んできました。こうした取り組みにより、「比婆いざなみ街道」など庄原の誇る資源の知名度は向上しました。

今後も、地域資源の持つポテンシャルを余すところなく活用できるよう継続的な取り組みを進めます。

また、近年、アウトドア施設が脚光を浴びる中、市内のキャンプ場やスポーツ施設等を活かす活性化策を展開します。

さらに、近隣市町との広域連携による地域の魅力発信するため、県東部の２市２町が連携する新街道を活用し、圏域への更なる観光誘客や交流人口の増加、関係人口を創出し、一層、地域の“宝”を輝かせる取り組みを進めます。